

市政報告 中学校に「図書館司書」の常勤配置を ～義務教育で学習環境の遅れは見逃せない～ みらい川崎市議会議員団 おだかつひさ



おだ かつひさ

1961年幸区生まれ。駒場東邦高校、中央大学法学部卒業(地方自治、都市政策専攻)国会議員秘書を経て、2003年市議会初当選、以降6期連続当選。第44代市議会副議長。
好きな言葉「知行合一」、「嫌を避くる者は皆内足らざるなり」有馬在任

おだかつひさ 検索

この4月から始まるとしての重要性が大きく「次期教育プラン実施計画」指摘されています。「画」の4年間で、すべて 氾濫する情報を的確に中学校に図書館司書が 認知し、判断できる能力配置される方針がやっとなを、授業と連動しながら示されました。

学校図書館機能に必要な 重要性が増しているのとされる「読書センター 学校図書館」です。機能「学習センター機 として蔵書の管理、図能」に加えて、GIGA 書の貸し出しをはじめ、スクールに対応するな 司書教諭らと連携しながら、「情報センター機能」ら、児童生徒に必要な図

書の準備や紹介など、学校図書館を活用した授業の支援を行うのが「学校司書」の役割なのです。

「不在」格差は深刻

横浜市ではすでに小中学校ごとに専任、常勤に近い形で学校図書館司書が配置されています。

しかし川崎市の小学校では、一人あたり週に3～4回、18時間までの勤務による「任用職員」(非常勤職員)として、本年度に全校配置されたばかりです。

中学校および特別支援学校では現在、18人の有資格の総括学校司書が、担当小学校を含めて巡回

による対応をしている。教育長が「すべての中す。週に2日、13時間ま 学校に総括司書を入れるの勤務との制約がある」との発言があったので、せいぜい月に1回とを引き合いに、「次期程度の訪問しかできません プランで全校配置」へとん。学校司書なしでは、対応の修正を実現させる図書館を活用した学習課題への対応は十分なのが実態です。

陳情審査で方向修正

長年にわたり「常勤の中学校司書の配置を」と育委員会の試算では、教育委員会に働きかけて 学校52校、特別支援学校きた市民団体から、市内 4校全体に司書を配置し全中学校、特別支援学校でも、必要経費はわずかに司書の配置を次期教育に3千万円程度なのでプランに明記を求め陳す。

情が出され、このたび審査を行いました。不登校や朝のこどもの居場所などに、学校図書館活用への新たな期待が当初、教育委員会は 館活用への新たな期待が「次期プラン策定作業のありませ。常勤での司書中で、記載の可否等を調の役割は増すばかりで整する」との態度です。これからも配置の加た。しかし10年前の請 速化を強く要望していき願・陳情審査の際に当

司書の役割は拡大

新年度予算では7名分の中学校司書経費が計上